商品売買

日商簿記３級で学習した内容

・三分法
・売掛金・買掛金
・前払金・前受金
・諸掛り
・返品
・受取商品券
・クレジット売掛金
・先入先出法、移動平均法
・仕入帳、売上帳、売掛金元帳、買掛金元帳、商品有高帳

仕入割戻

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 割戻の内容を理解しよう！

② 仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

仕入割戻：「仕入」勘定（三分法）

（１）割戻とは？

割戻（わりもどし）とは、一定期間に一定金額又は一定量の取引を行ったことによって、商品の代価を減額されること（リベート）をいいます。仕入れた商品の割戻を**仕入割戻**（しいれわりもどし）、売り上げた商品の割戻を**売上割戻**（うりあげわりもどり）といいます。割戻は、返品と違って商品を送り返すことはありません（商品は移動しません）。なお、売上割戻は後日、学習します。

（２）三分法における仕入割戻の会計処理

割戻があると、当初の仕入価額より安くなったことになるので、「仕入」勘定（費用）の減額処理を行います。

例題　**仕入先から掛仕入した商品1,000円について割戻10円を受けた。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　　　入　1,000 / 買　掛　金　1,000

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**10**	**仕入**	**10**

これにより、990円（=1,000円－10円）で商品を仕入れたことになります。

売上原価対立法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 仕訳をマスターしよう！

② 前T/B・後T/Bにおけるそれぞれの勘定の意味を理解しよう！

主な勘定科目

「商品」勘定（資産）

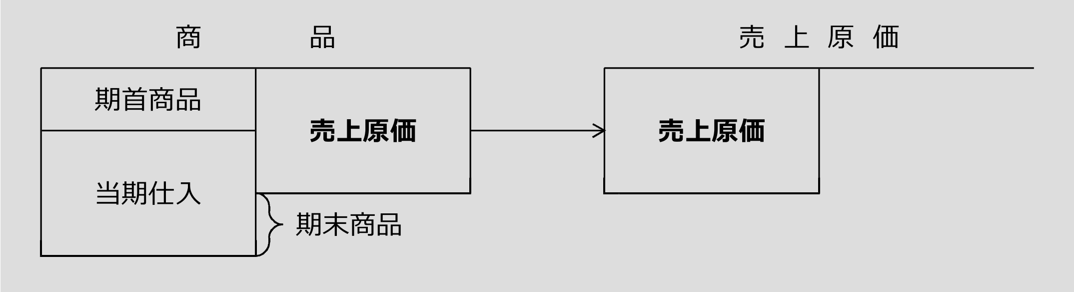
「売上原価」勘定（費用）

「売上」勘定（収益）

（１）売上原価対立法とは？

売上原価対立法とは、商品売買取引を「**商品**」勘定（資産）、「**売上**」勘定（収益）、「**売上原価**」勘定（費用）の3つの勘定を用いて仕訳する方法です。

商品を仕入れた時は「商品」勘定（資産）に記入し、商品を売り上げた時に売価で「売上」勘定（収益）に記入するとともに、売上原価の金額を「商品」勘定（資産）から「売上原価」勘定（費用）に振り替えます。



（２）仕訳処理

例題　**期首に商品200円（@100円、２個）があった。@100円の商品11個を仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、３個）が在庫として残っている。なお、商品売買について売上原価対立法で記帳している。**

①　期首残高

前期から商品200円が「商品」勘定（資産）で繰り越されます。

商　　品

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
4	1	前　期　繰　越	200				

②　仕入時（期中取引）

商品を購入すると資産である商品が増加しますので、「商品」勘定（資産）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
商　　　品	**1,100**	**現　　　金**	**1,100**

③　売上時（期中取引）

商品を販売した時には売価1,200円で「売上」勘定（収益）に計上します。また、資産である商品が1,000円（＝@100円×10個）減少しましたので、「商品」勘定（資産）を減少させるとともに、売上を獲得するための費用となりましたので「売上原価」勘定（費用）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**1,200**	**売　　　　上**	**1,200**
売　上　原　価	**1,000**	**商　　　　品**	**1,000**

④　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

商　　　　品	300	売　　　　上	1,200
売　上　原　価	**1,000**		

⑤　決算整理仕訳はありません

⑥　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

商　　　　品	300	売　　　　上	1,200
売　上　原　価	**1,000**		

⑦　損益計算書・貸借対照表での表示

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	1,000	売　　上　　高	1,200

売 上 高：@120円×10個＝1,200

売上原価：@100円×10個＝1,000

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　　品	300		

⑧　ボックス図

　売上原価対立法でも、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　　　品

借方		貸方	
期首商品	200	売上原価	1,000
当期仕入	1,100	期末商品	300

売上原価 1,000 ←→ 売上高 1,200

⑨　前T/B・後T/Bにおける各勘定の意味

　「商品」勘定は前T/B及び後T/Bで**期末商品**の金額を表します。また、「売上原価」勘定は前T/B及び後T/Bで**売上原価**の金額を表します。三分法と混同しないように注意して下さい。

	三分法		売上原価対立法	
	前T/B	後T/B	前T/B	後T/B
繰越商品勘定	**期首商品**	**期末商品**	—	
商品勘定	—		**期末商品**	
仕入勘定	**当期仕入**	**売上原価**	—	
売上原価勘定	—		**売上原価**	
売上勘定	**売上高**		**売上高**	

（3）返品

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

例題　**仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。なお、商品売買について売上原価対立法で記帳している。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　　品　100 / 買　掛　金　100

仕入戻し時には、仕入時の仕訳を取り消す処理を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買　掛　金	**100**	**商　　品**	**100**

例題　**得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。なお、商品売買について売上原価対立法で記帳している。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 売　　上　120

売　上　原　価　100 / 商　　品　100

売上戻り時には、売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　　上	**120**	**売　掛　金**	**120**
商　　品	**100**	**売　上　原　価**	**100**

（４）仕入割戻

割戻があると、当初の仕入価額より安くなったことになるので、「商品」勘定（資産）を減額する処理を行います。

例題　**仕入先から掛仕入した商品100円に割戻10円を受けた。なお、商品売買について売上原価対立法で記帳している。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　　　　品　　100 / 買　　掛　　金　　100

仕入割戻を受けると、仕入価額が安くなりますので、「商品」勘定（資産）を減少させます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**10**	**商品**	**10**

これにより、90円で商品を仕入れたことになります。